

第3回北九州市まち・ひと・しごと創生推進協議会での主な意見

総合戦略全般

- 総合戦略で、企業としての責任をいかに果たすのかということが具体的に記載されているので、再度しっかりと認識したい。
- 総合戦略は立派なものが完成しているので、今後はPDCAを回りながら方向性と実現性を高めていかなければならない。
- 地方創生が成功するためには、やはり今住んでいる方が幸せになる魅力ある都市でなければならない。

行動宣言

- 今回提示していただいている行動宣言を市民に周知し、北九州市の方向性を市民に知ってもらうことで一つの方向に向かっていければよい。

国家戦略特区

- 特区の指定を受けたいというところが多くある中で、政府からうまく理解をいただけたのはこれまでの活動が産官学でうまくできている。
- 特区も、自治体の提言の仕方によって、幅が広がり、逆に限られたものとなることから様々なアイデアをどうにかすかが課題。
- これからのロボットは介護も非常に重要であるが、人工知能を備えたロボットがどう中小企業や様々な現場で生かすことができるのかなど生産現場でのロボットの活躍も大きく期待されている。
- 特区を活かし全国に対して高齢者に対するサービス、支援などのモデルをPRしていただきたい。

進捗管理

- 進捗管理について、うまくいかないところの理由、原因を明らかにしてこの会合で一致団結して解決していけばよい。年1回の会議では少し期間が空くので、次のアクションを起こすためには中間的な見直しが必要だ。
- KPI達成率、事業進捗度に関して、達成率は数値化されるのでわかりやすいが、事業進捗率は曖昧な部分が出てくると思う。厳しい判断が必要となる部分も出てくると思うが、そういう決断のできる仕組みにしていきたい。

若者地元就職、しごと全般

- 学生の生の声をしっかりと聞いた上で若者の地元就職促進を考えていかなければならない。また、学校の先生や教授も地元目を見てもらうような施策が必要だ。
- 北九州地域では、高校は工業高校、大学は工業系大学が多いがそういった人の受け皿企業が少ない。産業界、行政、大学などが一緒にやっていく必要がある。
- インターンシップは、学生にとって有望な企業を発見する点で非常に良いが、企業側の受け入れ体制などがしっかりしていないと逆効果になる。また、実施する上で、学校と企業のしっかりとした連携が必要だ。
- 最近、技術系の人材を求めて関東などから九州に進出しようとしている大手企業があるので、そうした企業とタッグを組み北九州で新しいものを開発するチャンス、場を大きくしていきたい。
- 市と取引している企業が利益を出しておらず厳しい状況にあるので、企業誘致も大切であるが地元企業の育成を真剣に考えなければならない。また、企業に熟練した人がいなくなっているのでそうした意味でも人材育成は必要だ。
- 地元就職を進めるためにも、地元の中小企業の就職セミナー、事前説明会を早め開催していただき地元とつなげていきたい。

定住・移住、情報発信

- 定住・移住について、アクティブシニアを対象としているということで、50歳を超えると賃金水準の話以外にも、自分に合った働き方、魅力のある働き方を求めていく人もいるので、北九州ではこうした働き方ができることをPRしていただきたい。
- 北九州市には自然や地元の食べ物など子どもたちにとって良い環境が整っているいい街なので、こうしたことを外に発信すべき。また、情報発信としてテレビ番組の活用なども1つの手段である。
- 福岡県でも東京での受け入れ窓口などの情報発信力、様々な相談機能の強化を検討していきたい。東京の転職マーケットで転職希望者のうち5割は勤務地を問わないとのことなので、その部分に働きかけをしていきたい。
- 環境未来都市、スマートグリッドであれば北九州市と言われているが、北九州でないと見られないものを見つけることが産官学、市民、この会合を含めが課題だ。
- 北九州市は情報発信が弱手で、まち全体の弱さだと思うので、みんなで協力して情報発信していく方法をつくっていくしかない。
- 日本の中の北九州ではなく、世界における北九州の視点が重要である。来年のエネルギー大臣会合が開催されることから、これまで北九州市が取り組んできた環境のまちを世界に発信できるなどフォローの風が吹いている。

観光振興

- 観光客が他のところから来た時に北九州市に長く滞在してもらうためには魅力のあるまちでなければならない。そのためには、地元力もあげて、観光客を受け入れる体制を整えなければならない。
- 外国人は天守閣や漫画ミュージアムなど福岡市になくて北九州市にあるものに結構興味をもっている。留学生を使った魅力を発信していただくとともに、求めているものを調査し、ニーズにあったものを準備することが大切。

シビックプライド、子育て、教育

- ・ 北九州市ミュージアム構想推進事業はシビックプライドの醸成に向けた非常に重要な取り組みである。また、小学校応援団事業もシビックプライドを基盤で支える大切なものであるため、これからもしっかりと進めてもらいたい。
- ・ 小学校、中学校などに対しても、北九州市の方向性、未来を示して今後の街の姿を伝えていければよい。
- ・ 北九州は全国的にトップレベルの子育てしやすい街で今後も発展していくと思うが、教育環境も女性が定着する上で必須なのでそこの整備もしっかりしていただきたい。

広域連携

- ・ 広域連携はこれからの大きなキーワードである。これまでの自治体の枠を超えた発想は、全体の行政コスト削減なども含めて非常に大切。

その他

- ・ 北九州市には様々なものが市民遺産としてあるが、これを埋没させる、活用しないともったいないので、今後活用できる環境をつくっていききたい。
- ・ 60歳から以上の女性に対して、いかにして消費喚起を促すかが大切。
- ・ 空き家対策の推進の一環として、人口減少を踏まえて都市のリノベーションの推進を進めている。市との連携で、市の空き家解体に関する補助金を受給する方には、金融優遇などができるなど利用者にメリットをアピールしニーズに答えていきたい。
- ・ 今後、様々な事業で公から民間に移っていくので、その民間事業者との連携が発展につながるため、これまで以上に民間の情報に敏感になって対応していただきたい。
- ・ 何かをやる時には小倉に集まるような仕組みを作り、100万都市を実感できる状況があってこそ初めて地方創生の成功といえるのではないかと。
- ・ 高齢者のボランティア活動がもう少しできる街にしていただきたい。何かあれば積極的に参加させていただきたい。